

地域活性化という「遊び」

19

京都市
福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

夏 休みが終わったと思ったら
猛暑の夏は一体どこへ行って
しまったのか
山の中の限界集落の夜はもはや
ちよつと火が欲しいなというくらい
急に涼しくなりました。



子供達は3歳くらいから時計型ストーブで火遊びをしています。

うちの場合
9月の末には暖房と調理を兼ねられ
る薪ストーブを出してきます。
ちよつと早いように思います
出し遅れて季節の変わり目に体を冷
やすと体調を崩すのと



薪集めは大変ですが人が入らなくなった山の掃除を兼ねるので大切です。

子供達が火遊びを楽しみに待って
いるからです。
ストーブは3種類ほどあって
気候やその時のライフスタイルに合
わせて使い分けています。
まず出すのは

「北の国から」というドラマにも出
てきた時計型と言われるブリキのス
トーブです。
何重もの輪っかになっていて
その蓋をいくつ外すかで
上に置く鍋に当たる火加減を調節で
きるようになっていてとても便利。
べらべらの鉄板で出来ているので
鋳物のストーブのような蓄熱性はあ
りませんが
すぐ暖まってすぐ冷めるので今の季

「焚き火」のすばらしさを
皆さんに伝えたい

節にはびつたりなのです。

薪 も真冬のように長時間焚くわ
けではないので

立派なもの不要で

山の掃除を兼ねて

家の周りをちよつと歩けば小枝なん
かがいっぱい落ちています。

羽釜でご飯を炊くのお味噌汁を作
るくらいならそれで十分。

子供達には人気のある仕事(遊び?)
です。

「危ないから火遊びしてはいけません」

大人がよく使う台詞ですが

危ないからこそ

実際に経験させなければ

何がどう危ないのか

子供にはわからないと思います。

最近ではオール電化の家庭も増え

ガスの炎ですら

子供達が見る機会が少なくなってい

るかもしれません。

安全の面から見ると



■ 火を焚かなくても薪の準備で十分暖まる？



集落の小さな行事でも焚き火は欠かせません。こんな日のご子供達もずっと覚えていると思います。

火の気が無いというのはとても優れているかもしれない。しかし考えてみれば動物の中でも火を使えるのは人間だけ。それをうまく利用することで生きてきたわけですから火の良いところも危険と同じように子供達には伝えるべきだと思っっています。

火 は暖かいという他に煙が家の防虫になったり食品の殺菌になったり素晴らしい効果があります。燃えた後に残った炭や灰も様々な利用価値があるし単純に火を見るところだけでも気分が落ち着くなどリラククス効果もあるようです。田舎には火待ちちといって

当番さんの家や集会所に集まり囲炉裏の火を囲んで朝方まで過ごすという風習があったと。あちこちで耳にしました。これは多くの推測ですが火を見ながらゆったりとした気持ちでじっくり対話することにより普段なら言にくいような事がすんなり言えたりこじれていた問題が火のリラククス作用で言い争いにならず問題のより良い解決方法を見つけれられたりしたのではないかと思います。

子供達もご飯やお風呂を焚きながらただじーっと火を見つめている事がよくあるしほく自身子供の頃おじいちゃんと



子供達の成長に合わせてチェーンソーも使わせています。

焚き火をした事は火の形や草の焼ける匂い、木の爆ぜる音、煙で目が痛くなった事、煙と一緒に舞い上がる火の粉虫の声やちよつと焦げた焼き芋の味まで鮮明に覚えています。

遊ぶものは今よりずっとずっと少なかったけれど本当に楽しかった。最近焚き火どころか薪ストーブの煙突から出るちよつとした煙にも苦情が寄せられたり火はどどん隅に追いやられているような気がしてなりません。

火 のことで実は数年前から温めているアイディアがあります。名付けて「焚き火カフェ」。ぼくが勤めるみわ・ダッシュ村はカフェの周りが広く焚き火するには絶好のロケーションなのです。

山も近くさすがに直火は危ないのでドラム缶で焚き火台を作りその周りに丸太などで椅子を作ってテレビのないところでのんびり焚き火をしながらお茶でもしながら家族や友達とゆっくり過ごしてもらうのです。

ぼくたち家族がこちらで暮らすようになって見つけた火の楽しさを今年こそ皆さんにも伝えられたらと思ひ着々と準備を整えているところです。